

令和2年度学校評価

令和2年度の教育活動等に対する学校評価書

令和3年3月31日

学校法人 松城幼稚園

園長 大高 今日子

学校法人 松城幼稚園 学校関係者評価委員会 会長 マルテリ 茉莉亜

1. 幼稚園の教育目標

- ・人と人との関わりを通して、お互いを思いやり成長させていく力を養う。
- ・日常生活での出来事・恵みに喜び、感謝する気持ちを育てる。
- ・自分の思いを相手にしっかり伝え、行動できるよう導いていく。

2. 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

1. 途中であきらめず、最後までがんばる力を身に付ける。
2. 自分のことだけでなく、相手に対する思いやりを育てていく。
3. 子どもひとりひとりの個性を大事にしていきながら、苦手な物へのチャレンジも安心してやり遂げていけるよう導いていく。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(※評価点は、A {十分に成果があった}・B {成果があった}・C {少し成果があった}・D {成果がなかった})

評価の対象	評価項目	自己評価		評価委員会	
		点	幼稚園としての反省と改善策	点	意見
①教育内容	教育理念や教育方針の確立		コロナ禍での保育、4～6月までの2ヶ月は十分な保育も出来ず、2学期からも行事によってはキャンセル・延期になったものもあったが、キリスト教保育のなかでの大切な思いやる心、感謝する心を、こんな時だからこそ相手に対する心を育てていけたのではないかと。	A	キリスト教の理念に基づいた保育の中で、心の教育を大切にし、子ども一人一人に合わせた教育内容が実施されている。 未満児より学年ごとに分かれ、年齢に合った教育環境の構成が実施されている。
	教職員体制の充実と人事管理				
	教育環境の構成の工夫				
	研修や研究の取り組み				

②保育の 計画性 幼児への 対応	保育と計画 の評価・反省	保育後の教師会ではその日の子どもたちの様子を話し合い、全園児の日常のあり方に掛ける部分をしっかり、わかりあっておく。 ・保護者に誤解を招かないよう誠意ある対応、コミュニケーションをおこなっていくように心掛けはいたが、このコロナ禍という、今までと違った生活で十分にそれを伝えられていたか、もう一度それを考えていく。	A	緊急事態宣言解除後、通常保育開始にあたり、子どもたちの体力面、精神面に配慮し、負担なく保育を開始することができた。 コロナ対策として、給食の際の衝立や、園内行事の縮小、又は見合わせるなり園児の安全を最優先に、できる限りの対応を行った。
	健康と安全 への配慮や 言葉がけ			
	幼児への見 とりと理解			
	遊びの援助 者としての 関わり方			
③教師とし ての資質・ 能力・適正 等	教師として の能力・良 識の備え	子どもひとりひとりの個性をしっかりと見守りながらも、他人との関わりの中での子どもたちの様子をしっかりと捉えていく。 ・ひとつの観点から物事を囚われないためにも、他園との研修などにも参加し自分たちへの保育向上を高めていく。	A	のびのびとした環境の中で、子ども達一人一人のことをよく理解し、それぞれに合った保育をしている。 教員は子ども達の個性を尊重し、自尊心を育てるような保育を実施している。
	教師として の業務と責 任			
	組織の一員 としての在 り方の意識			
	専門的・社 会的知識の 研修と意欲			
④保護者へ の対応	適確な情報 発信と受信 をしている か	今とは違った生活、園での保護者との関わりでは、それぞれに物の見方、考え方の違いから十分に意思の疎通が出来ていなかったのではと、考えさせられた時期もあった。十人十色、一つの事を今までとは違った在り方で伝え動き出して行くことの大変さを考えさせられた。	B	園長、教員へ気軽に相談でき、保護者へ寄り添う形で共に子ども達の成長を共感し合える場がある。 園で起こった問題は、保護者に速やかに伝える必要がある。 学年別に行う懇親会での意見を直ぐに取り入れてもらえる体制がある。
	園長に報告 し、相談し ているか			
	守秘義務を 守っている か			
	礼節・良識 をもって対			

	応しているか			教員の真意がうまく伝わらず、教員の言葉かけにより保護者が傷ついた。	
⑤地域の幼児教育センターとしての役割	地域環境や人々との関わりと理解	小学校との連携と保育園との交流	コロナ禍のため外からの交流会はほとんど中止のなってしまった。コロナが終息した際には以前のよう関わりをもつようにしていきたい。	A	近隣には浜松城公園、中央図書館などの公共施設があるが、それらを訪ね、利用させていただくことで、子どもたちは様々な体験をさせていただけた。
	地域との交流・配慮の在り方				コロナ禍で、できない活動も多かった中で、できる限りの活動を行なった。
	未就園児に対する支援	月3～4回で集団での関わり、子育てのお手伝いの場になれるようこれからも提供していく。ただし蜜をさげ安心な環境の中で少しずつ行った。	まつぼっくりの会は、毎回工夫を凝らし、小さな子どもが楽しめる内容になっているほか、親子で安心して遊べる場所になっている。		
⑥環境安全管理	危機管理対策	施設・設備・園児に対する安全対策	月1回(火災訓練、地震訓練、防犯訓練)などを行ったりして、子どもたちへの意識を高めている。 ・大型遊具、建物内の修理、改築などは長期休暇中におこなった。 ・災害時の非常食、水などの備蓄は毎年点検し備えを置いている。	B	定期的な草刈り、落ち葉拾いなどの実施し、子ども達が安全に園庭を使用することができた。
	衛生に対する安全管理				門や、来園者に対してのセキュリティ対策は、今後の課題。
	防災対策が整っているか				各教室、園内にアルコール消毒を設置し、子ども達、来園者に対し検温、手の消毒を行い、コロナ対策を実施した。
					災害時の非常食や水等の備蓄の点検をし、再購入し入れ替えを行い、災害への備えをしている。

				コロナ禍で、園内での避難訓練の実施などできる限り行なった。
⑦預かり保育・給食・補助活動	預かり保育の内容の充実度	<p>・預かり保育の時間帯なども必要性をしっかりと保護者と話し合っとうまく活用出来るようにして行きたい。給食当番をお願いしている保護者にはかならず検便をおこなってもらい、手洗いなどの衛生面でも十分気を付けていく。</p> <p>・時間外活動では他園からの子ども達が入ってくるため、ルールやマナーを守るようお願いもした。蜜を避け安全面に気をつけ行った。</p> <p>・</p>	B	預かり保育の充実により、仕事をしている保護者の助けになり、利用者も増えた。
	給食の衛生管理			栄養を考えられた温かい、手作り給食を食べられることができた。その一方で、給食当番が保護者の負担になっている。
	時間外活動への対応（体育教室・サッカー教室）			課外教室の利用者も多く、充実している。一方で、体操教室の際、他園の方の送迎車による渋滞で、近隣住民や、在園児保護者の送迎に困難が見られる。
⑧外部アンケート	結果を踏まえた課題の検証	<p>年一度のアンケートや保護者との懇談会で話し合った、意見、要望も今後の課題として受け止めつつ、子どもたちのために大切なキリスト教保育の理念はしっかりと持って、これからも良い保育をして行きたいと願っている。</p>	B	園長自ら現場に立ち、よく理解し、他教員と情報共有している。保護者の意見を聞き取り、すぐ実践し取り入れる姿勢が見られる。
	保護者の意見・要望の集約と対応			穏やかな環境の中でのびのびと保育ができる伝統ある園風は、変わらず残して行きたい。
	情報発信と共通理解の在り方			様々な意見により、改善が難しい場合でも、意見に対する園の考えを柔軟に検討し、改善していく必要がある。
	適正な判断と改善努力			

評価目標の取り組み結果及び反省

年言われていることでもあるが、行事での保護者への負担については、来年度の予定を考えていく中で、もう一度検討していく必要があると考える。他園との交流、研修会参加によって、これからも保育者としての向上を心がけ、子どもたちと共に歩みよりよい保育につなげていきたいと考えている。

学校関係者評価委員会からのコメント（今後の課題等）

キリスト教徒精神に基づき、感謝や思いやりの心を持つ保育、季節ごとの遊びや行事を取り入れた保育がされている。緑多き自然の中で個性を尊重する指導教育により、園児はのびのびと過ごすことができる。未満児保育や、預かり保育の充実により、仕事を持つ保護者の助けに大いになった。

また、正課活動の中で、音楽、体育、英語の専門指導者を招き時代に合わせた教育も行われている。教員を身近に感じることができ、何でも相談できる温かい雰囲気の中で保護者も園児も安心して過ごすことができる。

給食について、楽しく当番をして頂いている方もいる一方、比較的同じ保護者が頑張っていることで成り立っている現状もあり、負担を感じている保護者もいるようです。今後人員の調整や、回数を検討していく必要性あり。伝統ある園の良さを失うことなく、仕事を持つ方、持たない方の両者が共に過ごしやすい環境が今後求められる。